

構造医学ニュース

(1998年9月～1998年11月)



第3回京都学術大会に160人

来年第4回は東京に決定

日本構造医学会は11月7・8日の2日間にわたって、京都市南区の京都テルサで第3回学術大会を開催した。参加者は前回の2倍以上に及ぶ160人。今回から会員以外の参加も呼びかけ、30人が「体験参加」した。2日間で8件の研究発表があった。来年第4回は、東京での開催が決定している。

血管壁のらせん構造の意味について 住岡輝明氏が教育講演—1日目

1日目は学術大会に先立って総会が行われ、平成11年度の予算および事業計画が承認された。また、学会約款の変更(本誌巻末参照)および今回新しく提案された学会憲章(41頁に掲載)も承認された。続いて学術大会に移り、冒頭に構造医学診療所所長の住岡輝明氏が循環器、とくに血管壁のらせん構造について、教育講演を行った。

血管壁がネジ山のようならせん構造になっていることは、一般医の中ではあまり知られていないが、すでに昭和44年に東京医科歯科大の島本多喜雄氏ががウサギで写真撮影に成功している。このらせん構造によって、血液は効率よく流れるのであるが、コレステロールやさまざまなストレスなどによって、このネジ山が消失・変形すると血流による摩擦が増え、高血圧など



冒頭の教育講演で説明する住岡氏

の循環器障害を引き起こす、といった本態の理解について概説された。また、住岡氏によると、循環器障害は非荷重にも関係しており、水系性の高血圧症患者の8～9割が左非荷重であるという。

住岡氏の教育講演の後、藤田潤氏(大阪府・開業)が「段構造より見た降り動作における足部接地の観察」について、大塚理可氏(日本構造医学研究所・学術教務部長)が「尾骨を含む外傷性骨盤環損傷と下腹領域婦人科疾患の解剖学的考察を通したリンク機転について」、松本伊佐子氏(東京都・開業)が「バランステーブル」



藤田(潤)氏



松本氏

構造医学ニュース



成田氏



藤田 (和) 氏



笠井氏

について、そして、1日目の最後に成田青重氏（大阪府・開業）が「バリアエムー7」について、それぞれ研究発表を行った。

踵力ボードによる養生運動など発表 - 2日目

2日目はまず、藤田和也氏（広島県・開業）が「顎関節症の解剖学と生理学」について発表、歯科の立場からみた氏独特の顎関節の捉え方および対応の仕方が、構造医学と矛盾しないことを強調した。藤田氏に続いて日本構造医学研究所付設臨床センター・臨床部長の市側徳次氏が「ウォーターバッグによるウェイトベアリングへの水圧効果について」、笠井浩一氏（大阪府・開業）が「湿布の冷却効果について」、最後に前田篤宏氏（鹿児島県・開業）が「構造医学理論を基軸に一枚の踵力ボードを用いた養生運動の研究」について発表した。

踵力ボードは前田氏が独自に開発したもので、特殊樹脂の使用で適度の堅さと弾力性を兼ね備えている。ボード上でつま先立ちをしたり、足踏み動作をすることによって、不安定上での動



前田氏

的安定効果が得られるという。

頭部冷却装置の臨床治験について討論 2日目のシンポジウム

研究発表が終わった後、吉田勲持会長が大会の総評ならびに近況研究報告を行った。吉田会長は、「構造医学はまだまだ教育インフラ整備の段階」として、構造医学の教育に必要な教材、研究資料、研究機材などの開発をさらに押し進

構造医学ニュース



吉田会長からの大会の総評と近況報告

めていく考えを明らかにした。今回の大会では、高品質のエポキシ樹脂を使って新しく製作した透明骨盤クランク模型や透明頭蓋模型、また、口腔内から視床部を冷却する器具などが披露された。

会長総評の後シンポジウムへ移り、頭頸部クライオトロン（頭部冷却装置）臨床治験の経過報告というかたちで、伊井一博氏（宮崎県・開業）、佐々木光宏氏（宮崎県・開業）、関谷康夫氏（千葉県・開業）、宮地尚彦氏（東京都・開業）の4氏がパネラーとなりディスカッションが行われた。

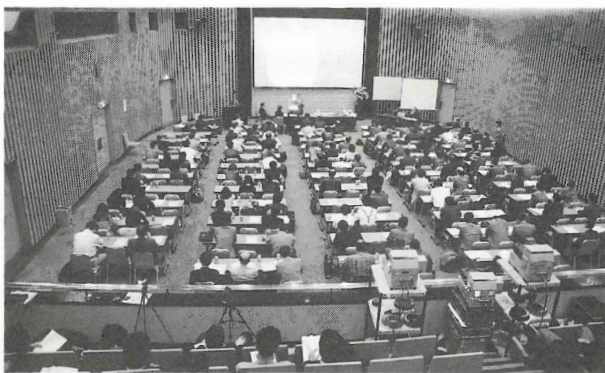
4氏とも頭頸部クライオトロンの臨床応用で、まず事故や悪化は1例もないことを報告。そして、脳障害、てんかん、歯槽膿漏、歯痛、イライラなどの心身症状の解消に効果があるだけでなく、これまで自分が修得した構造医学的対応だけではどうしても改善が見られなかった症状が、劇的に改善した例も報告された。

吉田勸持所長が特別講演

第3回日本咬合研究会・東京大会

日本咬合研究会（筒井昌秀会長）は、11月14・15日の両日、東京商工会議所・国際会議場で、第3回学術大会を開催した。参加者は2日間で約200人。日本構造医学研究所の吉田勸持所長が特別講演として、「全身と歯の関係について」2時間ほど講演し、参加者の注目を集めた。

同研究会は、平成8年に旧・日本エレクトロナソグラフ研究会が名称を変更して再出発したもので、第1回大会は神戸市で、第2回大会は昨年、名古屋市で開催されている。咬合（顎関節）を全身の健康との関わりからみよう、という気運が高まっており、今回、吉田所長の特別講演のほか、基調講演でも大阪大学歯学部教授の丸山剛郎氏が、「全身の健康における臨床生理咬合」について、自らの症例を紹介しながら、常に全身との関係をみなければならないことを強調していた。



参加者の関心を集めた特別講演（第3回日本咬合研究会）